

保育施設における誤嚥等の事故防止のためのチェックリスト

<食事時の誤嚥防止>

- 誤嚥、窒息につながりやすい食材は、極力使用しないようにしている。
(プチトマトは四分割にカットするなどし調理を工夫している。)
- 子供の食事に関する情報(発達状況や食べ方の特徴等)を十分把握している。
- 食事の前に、当日の子供の健康状態等を確認している。
- ゆっくり落ち着いて食べることができるよう、子供の意思に合ったタイミングで食事を与えている。
- 食べ物を飲み込んだことを確認している。(口の中に食べ物が残っていないか注意している。)
- 子供の口に合った量で与えている。(1回で多くの量を与えていない。)
- 汁物などの水分を適切に与えている。
- 食事中に眠くなっていないか注意をしている。
- 食事時に限らず、保育中に子供が勝手に食材を手にしたり、口にしたりすることがないように食材の管理を十分行っている。

<玩具・小物等の誤嚥・誤飲防止>

- 窒息の可能性のある玩具、小物等が不用意に保育環境下に置かれていないかなどについて、定期的に点検している。
- 口に入れると窒息の可能性のある大きさ、形状の玩具や物を乳児のいる室内に置かないようにしている。(手に触れない場所に置くようにしている。)
- 手先を使う遊びには、部品が外れない工夫をしたものを使用し、その子供の行動に合わせたものを与えている。
- 誤嚥につながるもの(髪ゴムの飾り、キーホルダー、ビー玉や石など)を身に付けないう、保護者にも協力を求めている。
- 窒息の危険性があった玩具やこれまでに窒息事例があるものと類似の形状の玩具等については、施設内で情報を共有し、除去している。
- 消毒液や薬品、洗剤等は、放置せず、子供の手の届かないところに置くようにしている。